

平成 22 年度  
「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」  
「大学教育・学生支援推進事業」学生/就職支援推進プログラム  
意見交換会【東海・北陸地区】

事例紹介大学等のプログラム概要

1. 富山大学（平成 20 年度選定）

プログラムの名称	富大流人生設計支援プログラム － 『14 歳の挑戦』 と連携する長期循環型インターンシップモデル
（プログラムの概要）	
<p>富山県では全国に先駆けて県内全中学校が「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を実施しており、本学のインターンシップにも経験学生が参加するようになってきたが、相互に連携・接続していないために生徒・学生の経験値は個人レベルにとどまっていた。本プログラムではインターンシップ参加学生が実習後も ICT を利用した自学研修を重ね、『14歳の挑戦』の生徒指導ボランティアとして参加する。大学生は自らの成長を省みる機会を獲得し達成効果を高め、中学生は数年先のキャリアターゲットとなる大学生と触れ合うことで将来像を獲得し、発達段階に応じたキャリア教育の学びの循環として機能する。本プログラムにより、パーソナル支援、修学・学生支援、キャリア開発支援の総合的學生支援体制が推進できるとともに、他の高等教育機関と地域社会に対しても新しいタイプの長期型インターンシップを提示することになり、地域社会全体の活性化に大きく寄与できる。</p>	

2. 岐阜経済大学（平成 21 年度選定）

プログラムの名称	就活サークルと学生・OBメンター育成によるキャリア教育の充実
（プログラムの概要）	
<p>岐阜経済大学はキャリア教育を体系化し高い就職率を達成してきたが、より一層の就職率の向上と質の面での充実を目指し、学生とOBをキャリア教育に参画させる取組に着手する。①1年次からの様々なキャリア教育の場面や説明会で内定獲得者やOBが体験談などを披露する。②昨年度から活動を始めている就職活動サークルを全学年が参加する活動として充実させ、内定を得た先輩が後輩を指導するという流れを作る。③外部に委託してきた就職活動の特別講座の補助員として学生メンターが参画する、などの取組を行う。岐阜経済大学は「地域に有為な人材を輩出する」ことをその社会的使命に謳っている。言われたことを実行するだけでなく、自ら主体的に行動する力が求められるのだが、学生メンターとしての活動経験は、自ら考え行動する力を高め、岐阜経済大学卒業生の学士力の向上に寄与することが期待できる。</p>	

### 3. 岡崎女子短期大学（平成 21 年度選定）

プログラムの名称	求職求人をマッチングさせて紹介する就職支援情報システムの活用
<p data-bbox="183 421 478 459">（プログラムの概要）</p> <p data-bbox="167 488 1444 936">今日、インターネットの活用は当然のことだが、卒業や資格取得のための学修で多忙な短期大学の学生にとって、真に活用できる情報を得ることは容易ではない。一方、進路支援においては、学生へのタイムリーな情報の提供と指導が不可欠である。そこで、本取組では、身近な情報機器を実践的な道具として活用できる環境を整備し、学生がその使用を体験すると共に、積極的な就職活動ができるよう支援を行う。具体的には、WEB で学生が登録した進路についての目標を地域に密着した独自の求人情報データベースと照合して、本人の希望に合ったものを適宜提供できる環境を整備する。また、メールシステムの連動によって、新着情報の確認を促し、同時に必要な連絡などを迅速に行う。さらに、子育て支援などの分野において貴重な人材である卒業生にも登録を勧め、希望者には在校生と同様のサービスを提供し、地域への人材供給のためのネットワークを構築する。</p>	

### 4. 芝浦工業大学（平成 21 年度選定）

プログラムの名称	入学から卒業まで総合的なキャリア形成支援体制の構築
<p data-bbox="183 1364 478 1402">（プログラムの概要）</p> <p data-bbox="167 1431 1444 1879">本学では既に就職支援システム「CAST」を運用し、主に就職活動を行なう3年生以上に対して多様なサービスを行なうと共に就職担当教職員の指導環境を Web 上で提供している。一方、低学年を対象に実施している共通キャリア教育を中心とした取り組みはそれぞれ独立して実施されており、キャリア教育と就職活動が有機的に関連していない。今回の計画では、工科系学生向けに独自編集するキャリアデザインワークシートを CAST 上に展開して入学から卒業まで利用できるキャリア形成支援システムに拡張し、あわせて低学年時の各種キャリア教育と連動させ、学生が振り返りと目標設定を繰り返して目的意識の醸成を促す環境を整備する。また特に低学年生を個別相談窓口で誘引し学生個々への学修カウンセリングを行なうこととし、現在は脆弱なカウンセリング体制・環境を強化する。こうして自身での作業と他者との対話の環境を整備することで教育効果と就職実績の向上を図る。</p>	